

決算説明会

2022年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2021年8月4日

1Q連結業績サマリー

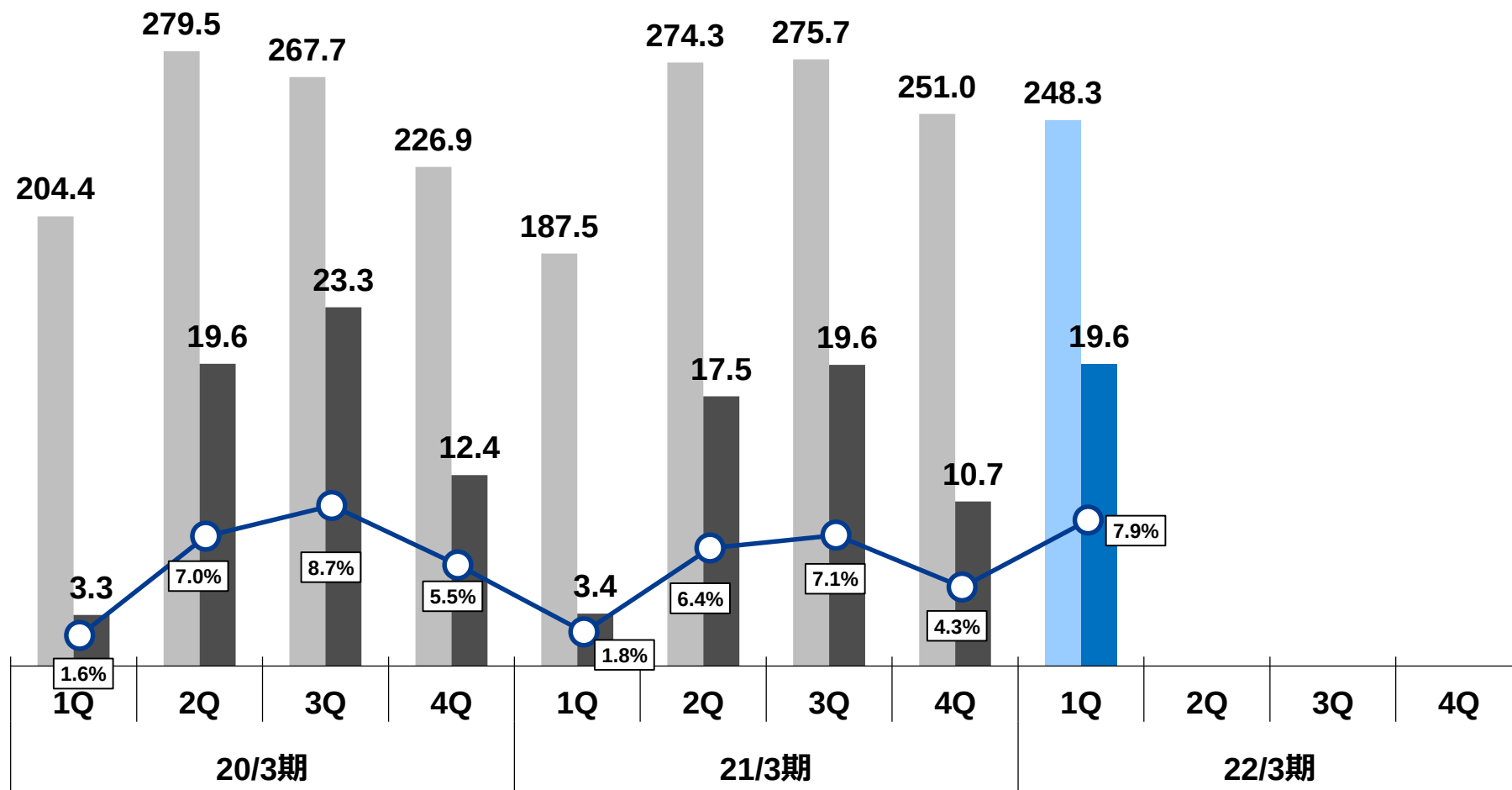
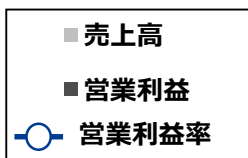
売上高、営業利益ともに第1四半期として過去最高

(百万円)	2021年3月期		2022年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	187,463	250,985	248,305	+32.5%	-1.1%
営業利益	3,409	10,692	19,628	5.8倍	+83.6%
税引前利益	3,319	9,928	19,603	5.9倍	+97.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,216	7,192	14,659	6.6倍	2.0倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	5.43	17.64	36.11	6.7倍	2.0倍

為替レート	2021年3月期 1Q	2021年3月期 4Q	2022年3月期 1Q
US\$	107.74円	104.74円	108.99円
ユーロ	118.23円	127.53円	130.84円
タイバーツ	3.34円	3.47円	3.50円
人民元	15.12円	16.17円	16.80円

売上高、営業利益、営業利益率

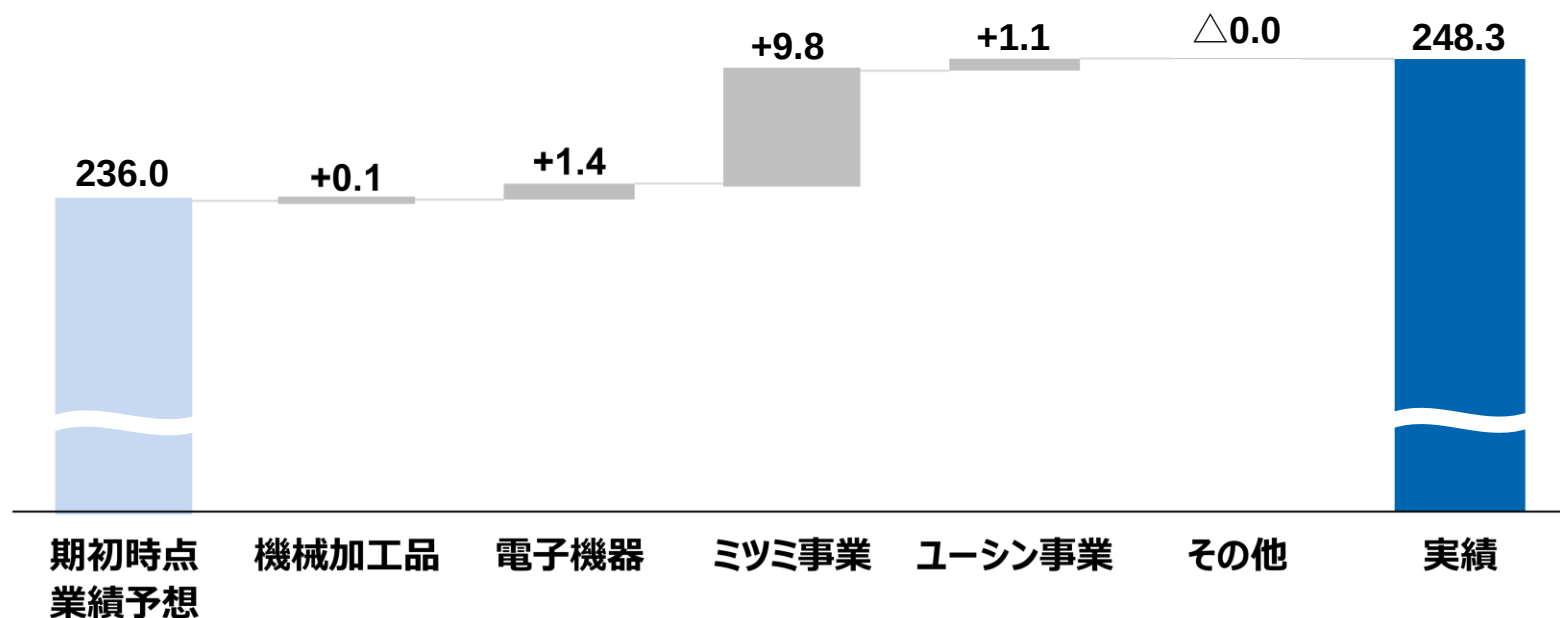
(10億円)



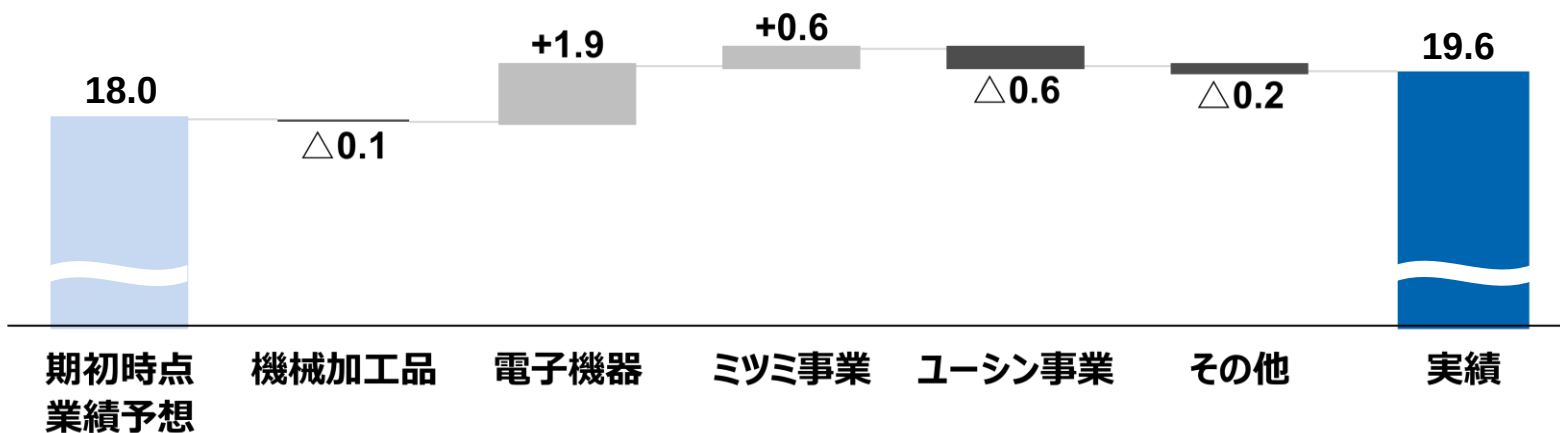
1Q実績 期初予想からの差異

(10億円)

売上高

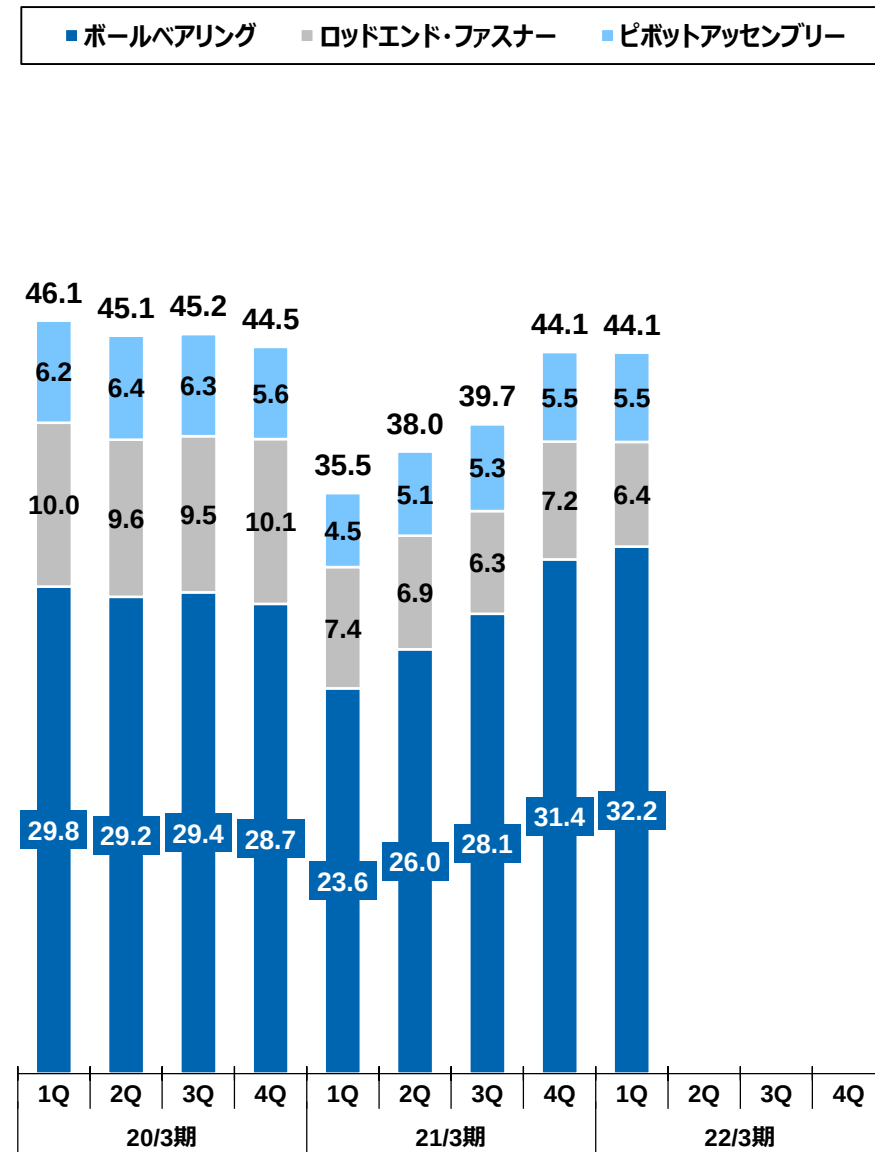


営業利益

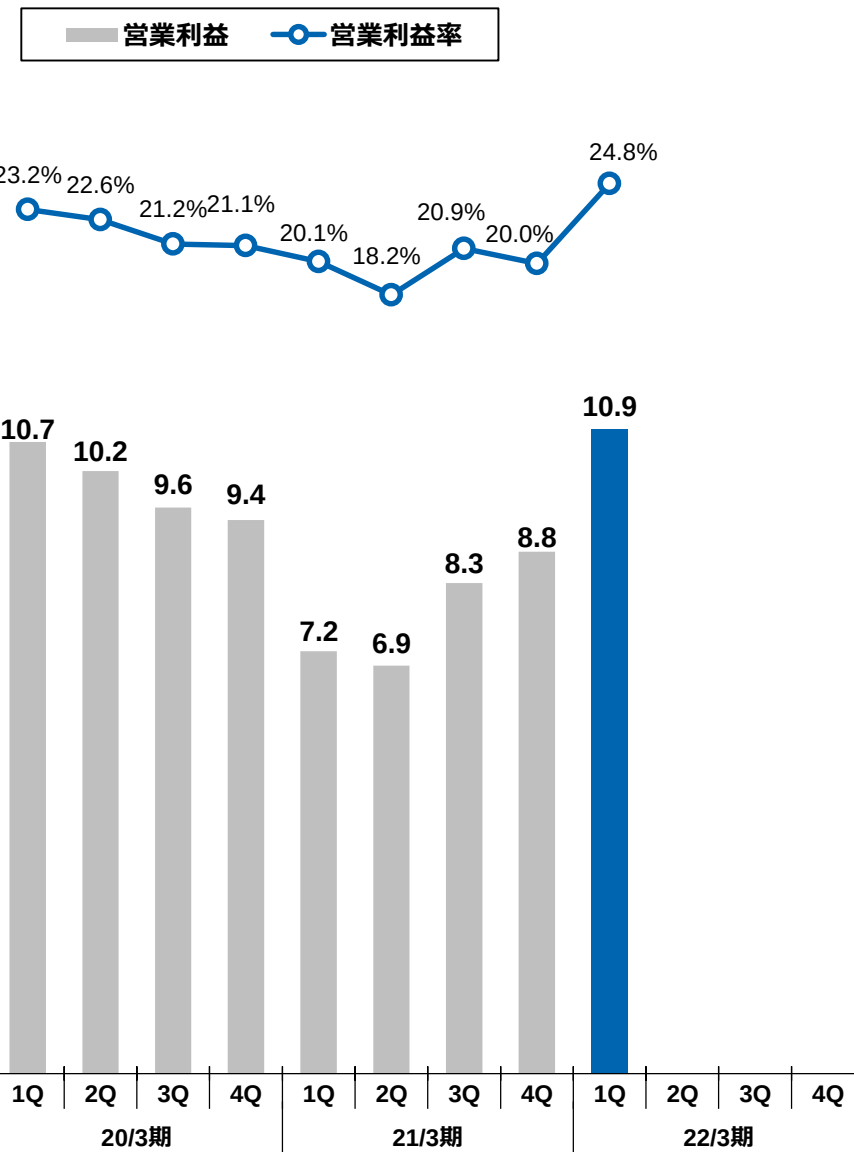


機械加工品事業セグメント

売上高 (10億円)

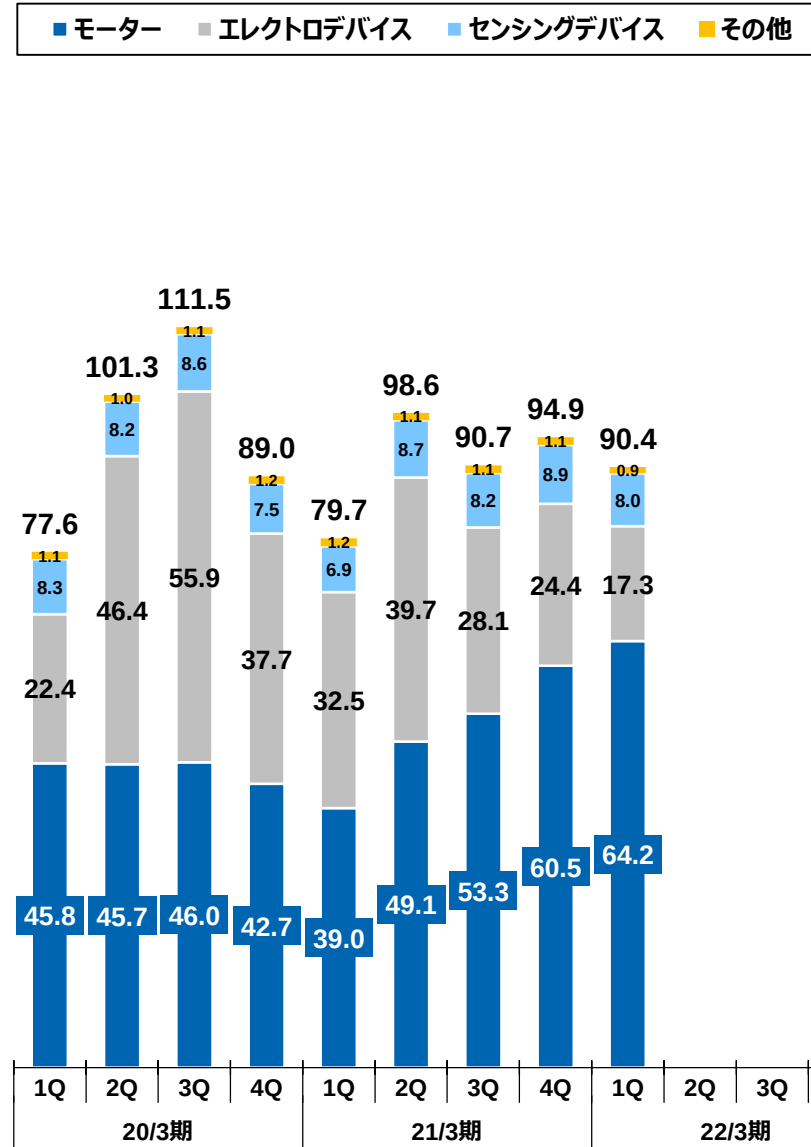


営業利益 (10億円)

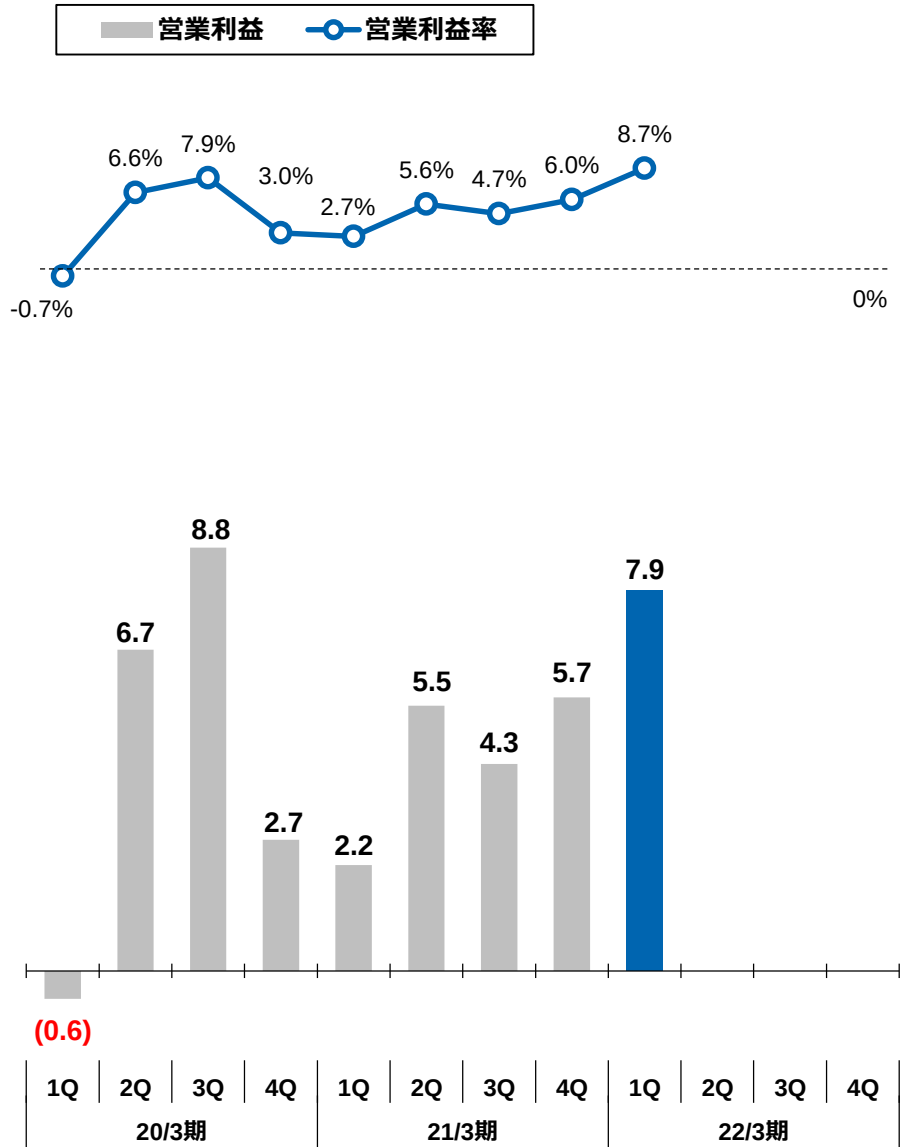


電子機器事業セグメント

売上高 (10億円)

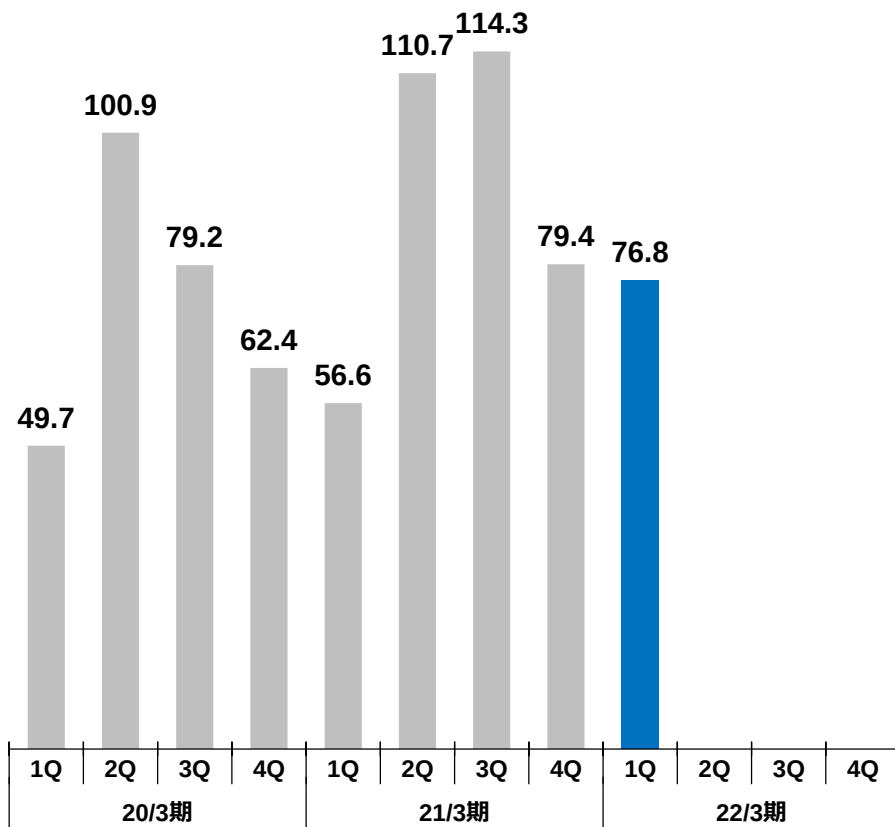


営業利益 (10億円)

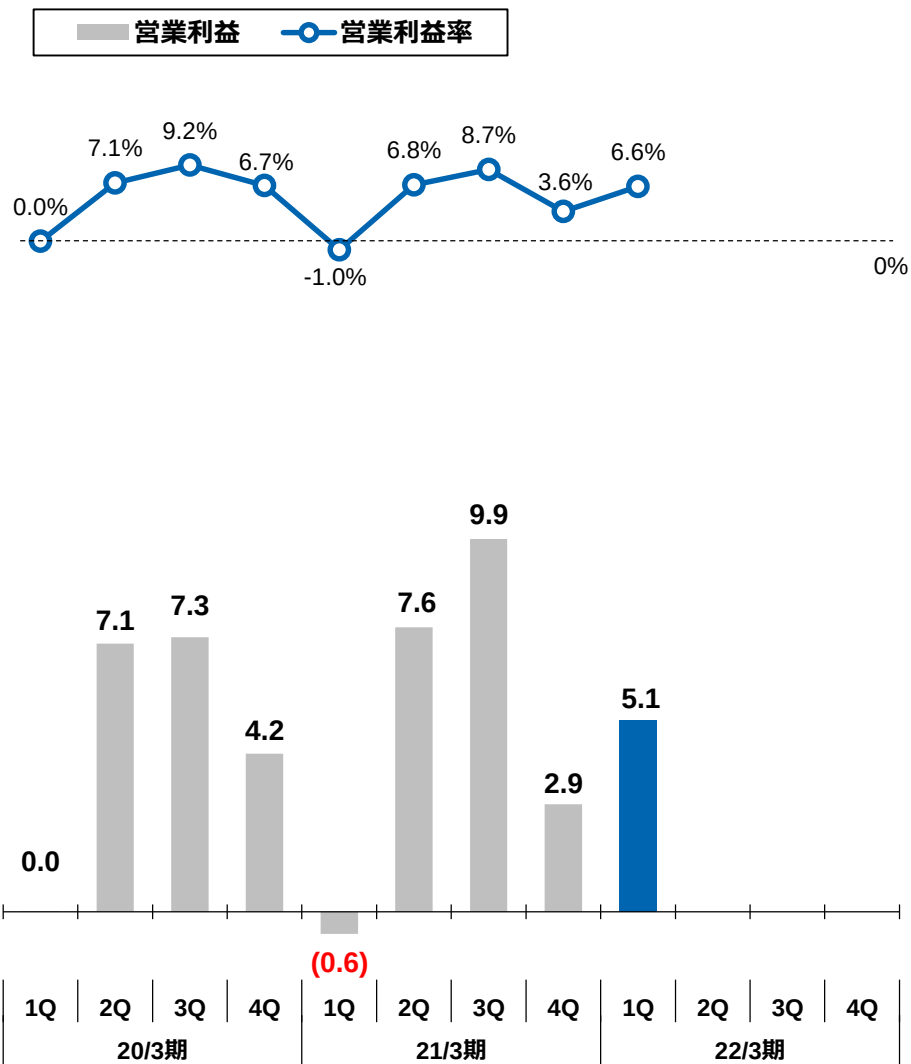


ミツミ事業セグメント

売上高 (10億円)

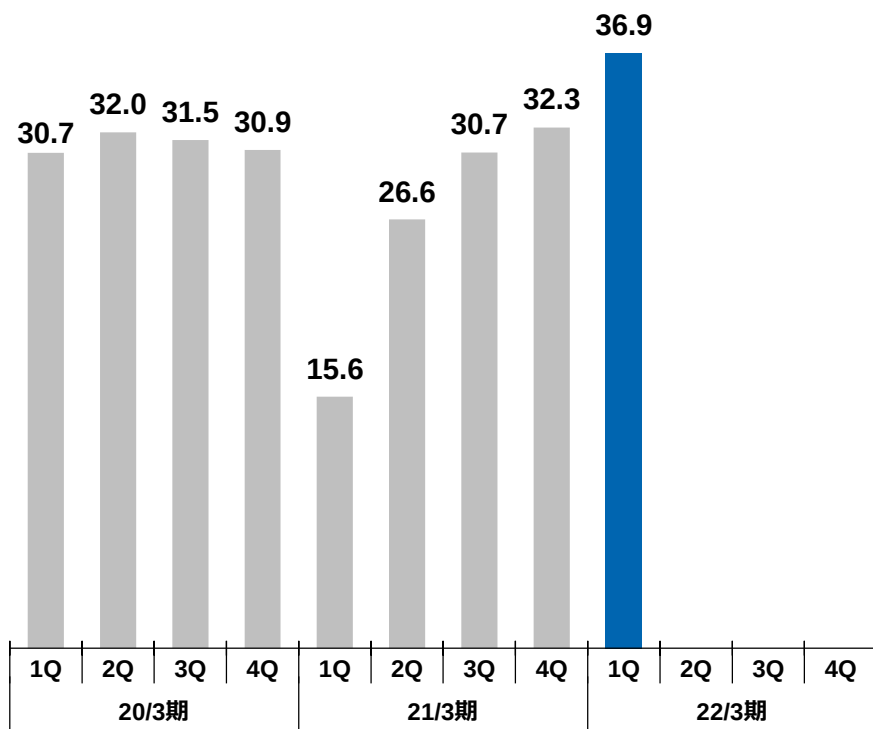


営業利益 (10億円)

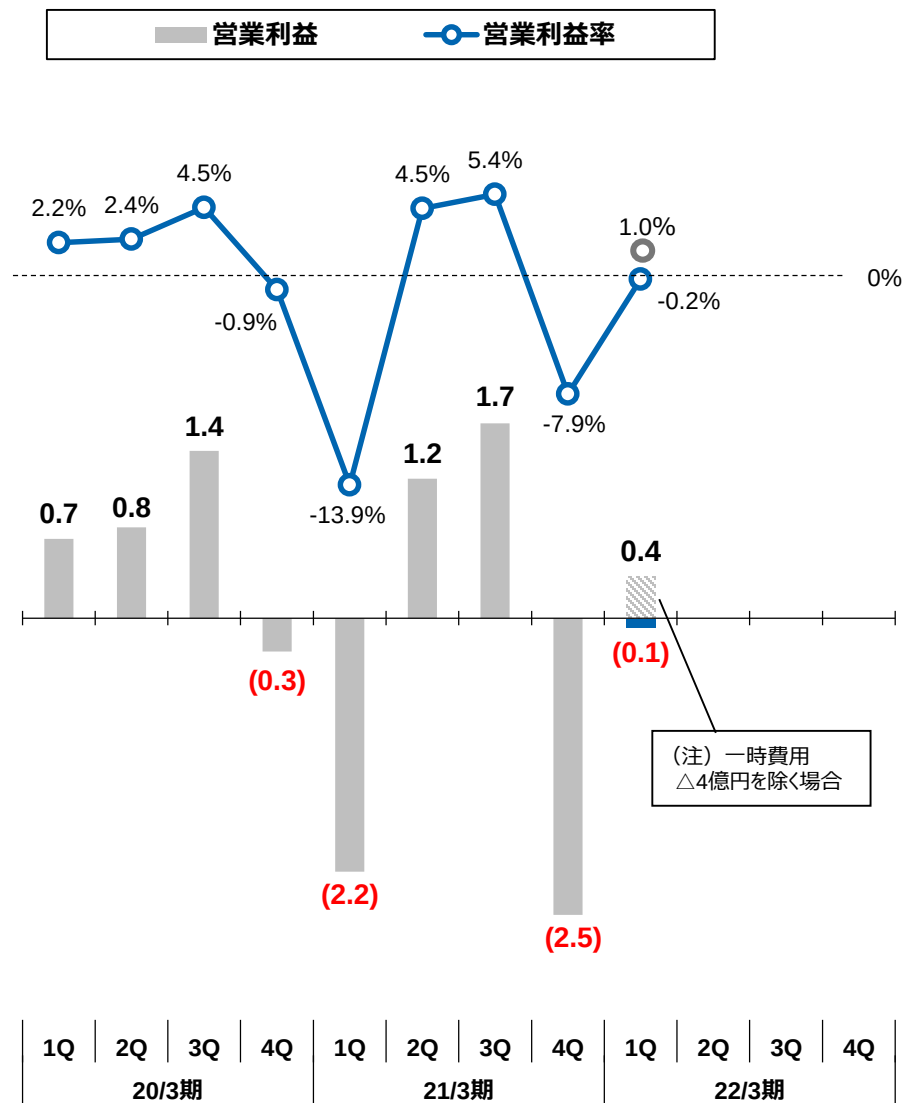


ユーシン事業セグメント

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

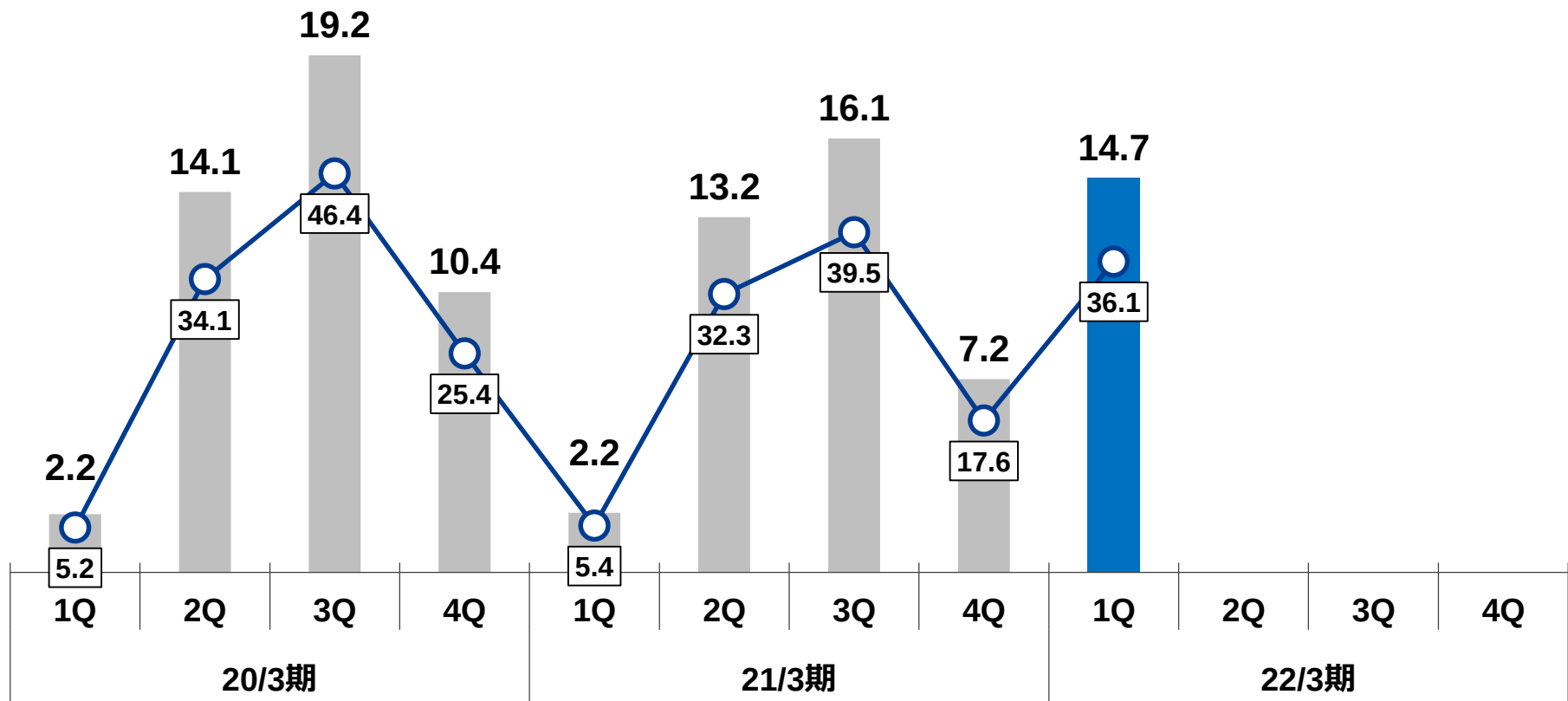


*PPAにより、20/3期は修正

親会社の所有者に帰属する四半期利益

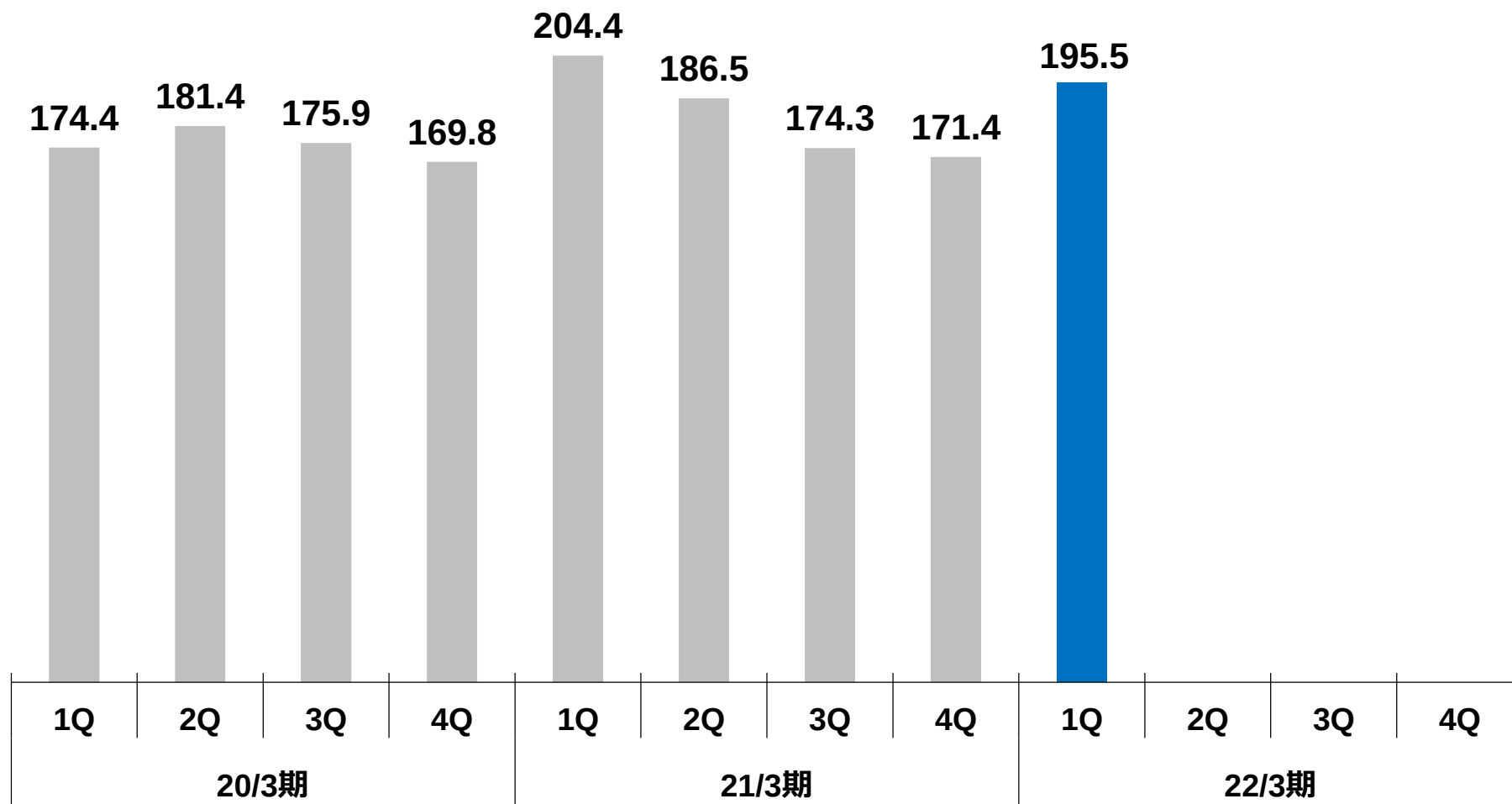
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益
○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



棚卸資産

(10億円)

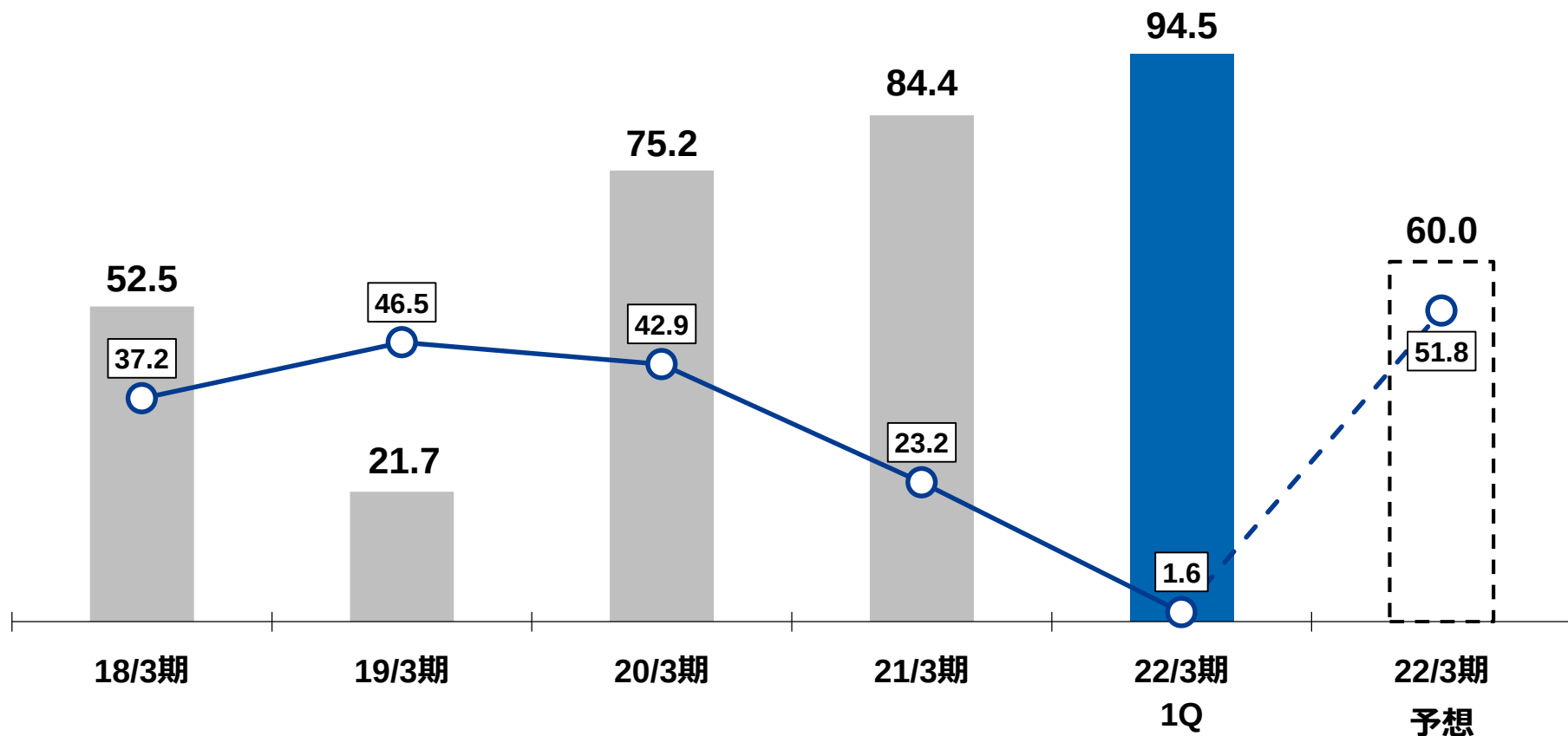


ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期はJGAAP

■ ネット有利子負債* ● フリーキャッシュフロー

(10億円)



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金)

← [JGAAP] → [IFRS] →

通期業績予想を上方修正（上半期のみ見直し）

(百万円)	2021年3月期 通期	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	537,000	513,000	1,050,000	+6.2%
営業利益	51,166	45,000	42,000	87,000	+70.0%
税引前利益	49,527	44,500	41,500	86,000	+73.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	38,759	34,500	33,500	68,000	+75.4%
基本的1株当たり 当期利益（円）	94.95	84.99	82.53	167.52	+76.4%

為替レート	2021年3月期 通期	2022年3月期 2Q想定	2022年3月期 下半期想定
US\$	105.79円	110.00円	107.00円
ユーロ	123.22円	130.00円	130.00円
タイバーツ	3.40円	3.45円	3.45円
人民元	15.52円	17.00円	16.50円

下半期想定レートは期初
想定から変更していません

セグメント別業績予想

(百万円)	2021年3月期 通期（組替後）	2022年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	988,424	537,000	513,000	1,050,000	+6.2%
機械加工品	157,411	91,000	84,000	175,000	+11.2%
電子機器	345,595	190,000	165,000	355,000	+2.7%
ミツミ事業	352,277	179,000	191,000	370,000	+5.0%
ユーシン事業	132,112	76,600	72,400	149,000	+12.8%
その他	1,029	400	600	1,000	-2.8%
営業利益	51,166	45,000	42,000	87,000	+70.0%
機械加工品	31,223	23,000	20,500	43,500	+39.3%
電子機器	17,685	15,500	10,500	26,000	+47.0%
ミツミ事業	20,458	13,500	16,500	30,000	+46.6%
ユーシン事業	△2,594	1,000	3,500	4,500	-
その他	△1,908	△1,000	△1,000	△2,000	+4.8%
調整額	△13,698	△7,000	△8,000	△15,000	+9.5%

全体

- 1Qとして過去最高の売上高、営業利益を達成。（前期比5.8倍）
- 多様化した事業ポートフォリオが、航空機関連および半導体不足に起因する需要減少や原材料価格の高騰等のマイナス要因を打ち消す。
- 通期業績予想を上方修正。（上半期のみ見直し）

機械加工品

- 機械加工品の1Q営業利益率は予定通りV字復活。
- ボールベアリングは多目的工場へのさらなる増産投資を決定。
- 航空機関連事業は一部に明るい兆しあり。

電子機器 ミツミ事業

- モーターを中心に自動車向け新規製品が続々と立ち上がる。
- アナログ半導体はハード面とソフト面で大幅に強化。
今期は上半期営業利益100億円も射程圏に。
⇒アクセス製品をしのぎ3番目の槍に番付が上がる可能性！
- カメラアクチュエータの引き合いは着実に強くなっている。

ユーシン事業

- 高付加価値品へのシフトが進む。（大型案件のファーストベンダーに！）
- 引き続き構造改革を実施。

主なポイント

1 多目的工場の一部をミニチュア・小径ボールベアリング工場へ！

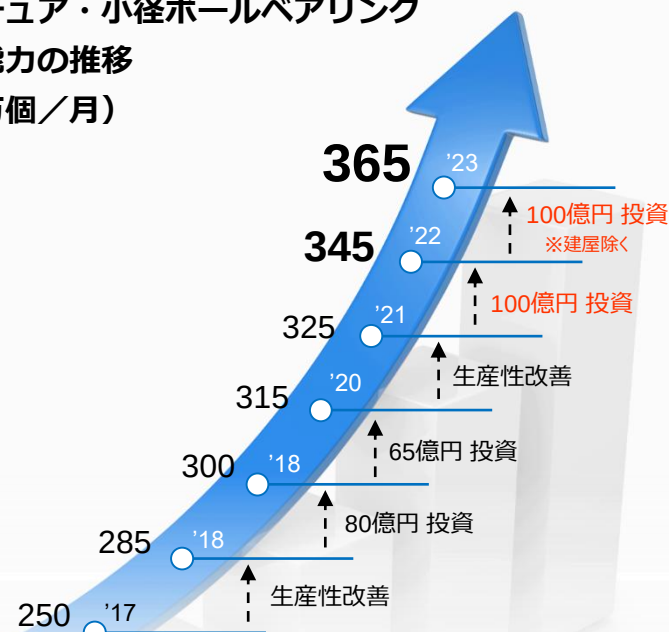
月産365百万個体制を早急に整備する

2 外販は勢いが止まらない

すべての用途向けで旺盛な需要が続く
⇒車載、データセンター、高級家電等

3 増産効果で営業利益率は引き上げへ

ミニチュア・小径ボールベアリング
生産能力の推移
(百万個/月)



多目的工場へのボールベアリング設備導入

- 投資額
 - 建屋 40億円
 - 設備 100億円 (第一期分)
- 建設予定地
 - タイ バンパイン工場
- 稼働開始予定
 - 22年8月頃
- 生産能力
 - 20百万個/月



多目的工場 (タイ バンパイン工場内)

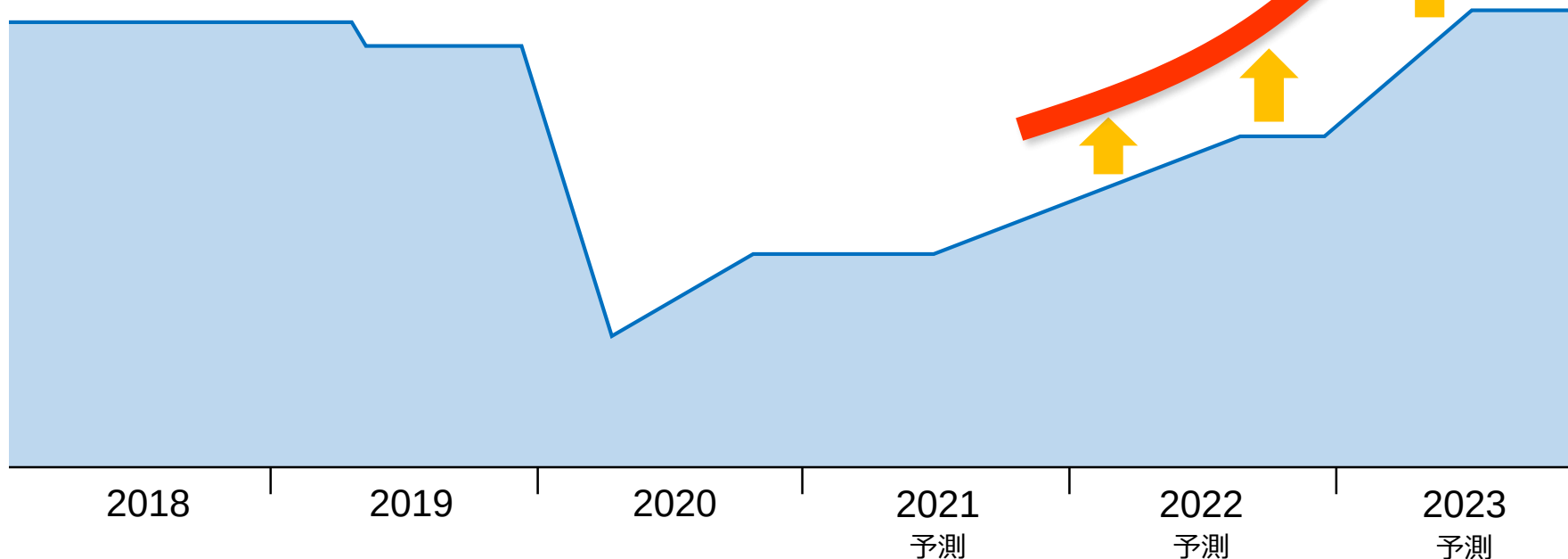
民間航空機 生産レート実績／予測

(当社調べ)

外部環境

- 旅客需要の回復
- 航空会社におけるCO₂削減の取り組み
⇒省エネ性の高い新造機の需要増

さらなる生産計画
前倒しの可能性？



主なポイント

1 車載用モーターは続々と新製品/大型案件が立ち上がる

- EV向けトラクションモーター用レゾルバ
- EV向け二次電池冷却FAN
- EPB用DCモーター
- アクティブ・グリル・アクチュエーター等

2 HDDも高付加価値戦略が奏功

3 半導体事業とのシナジーも模索する

今後爆発的な成長を予定する
車載用モーターの一例

安全性



EPB用
DCモーター

快適性



HVAC用
ステッピング
モーター



車載モーター売上高は
CAGR 20%以上を見込む
(21/3期～25/3期)

環境性能



トラクションモーター
向けレゾルバ



EV用二次電池
冷却FAN



バルブ用
アクチュエーター



アクティブ・
グリル・アクチュエーター

主なポイント

1 ハード面の体制整備

- 6インチ/8インチの生産体制で生産効率化
- 8インチFabへの100億円超の追加投資により、
全社生産能力は50%UP
→補助金が採択されました

2 ソフト面の体制整備

- 総勢300名による技術・開発体制を確立
- ミックスドシグナル半導体を通じたアナログ
半導体の競争力強化
- モーターを含めた相合によるシナジーを加速

3 さらに拡張の余地で 施設的な問題点は解決

アナログ半導体生産体制

前工程

千歳
(6インチ)



高塚
(6インチ)



野洲
(8インチ)
New!!



後工程

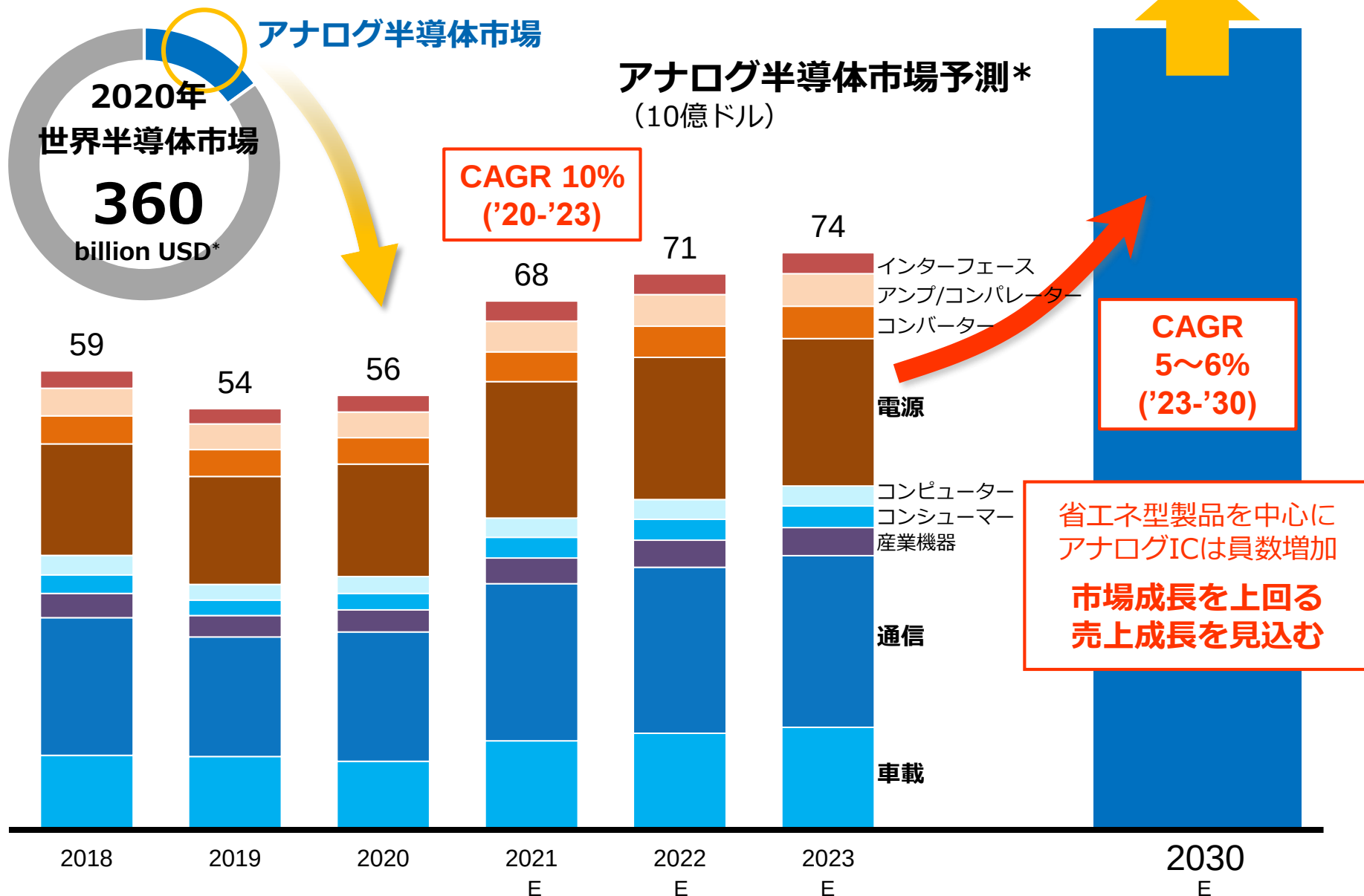
セブ
(フィリピン)



秋田



【参考】アナログ半導体市場予測



* 2018-2023予測：世界半導体市場統計（WSTS）
2030予測：当社調べ

主なポイント

1 大手顧客向け新型OISの 立ち上がりは順調

- 今期も順調な立ち上がり
⇒高付加価値モデルの搭載率上昇で、
売上、利益とも前期を大きく上回る
- 引き続きOISの成長に積極的に対応



2 次世代OISを拡販しスマホ用 カメラの技術革新をリードする

3 ゲーム向けは 今期も販売好調と予想

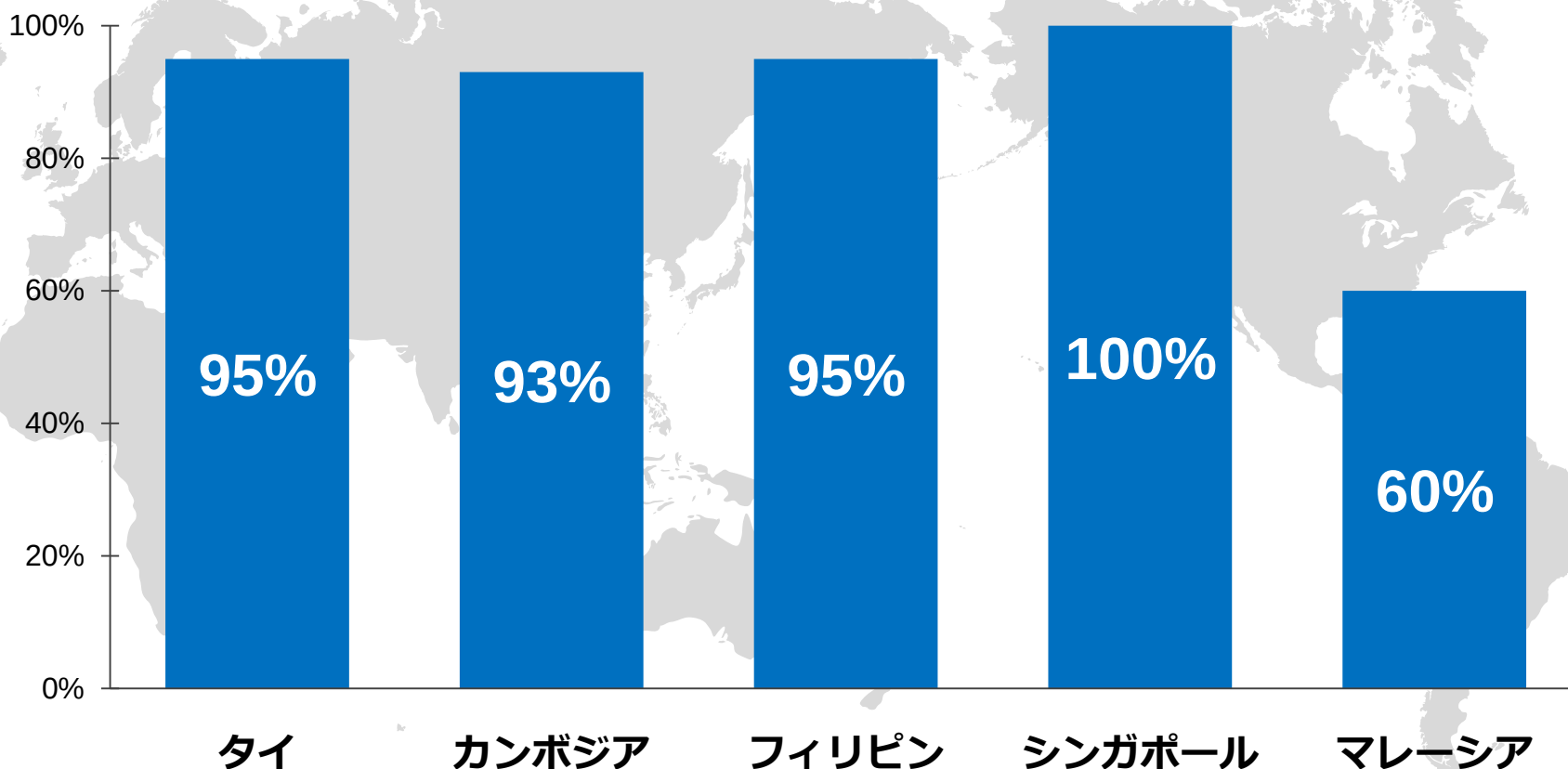


3本槍+1+1で力強く上乗せ

(ベアリング、モーター、アナログ半導体、OIS、ゲーム)

**散発的な感染が発生しているものの
全体として通常操業時とほぼ同等の稼働
(1年半で約200回にせまるCEO主催の対策会議を実施)**

東南アジア主要拠点の稼働率の状況（2021年7月末時点）



自社株買い決議（2021年8月4日）

- 取得株式総数：上限 300万株
（発行済株式総数（自己株式を除く）の0.74%）
- 取得株式総額：上限 100億円
- 取得期間：2021年8月5日から2021年10月29日まで
- 理由：株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた
機動的な資本政策を遂行するため

【ご参考】CEOをはじめ業務執行兼務の取締役の報酬決定のKPI

当期利益、売上高成長率、対日経平均株価パフォーマンス、
営業利益率に加え、**本年より時価総額を追加**

ひとり親支援団体への寄付を実施 ～創立70周年記念事業～

新型コロナウイルスの感染拡大により困難な状況におられる皆様に、心よりお見舞いを申し上げ、このたび寄付を実施させていただきます。

- 目的 高校生の子供を持つひとり親のご家庭への支援
- 使途 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ様
「高校生応援するよ！プロジェクト」
- まず5,000万円の寄付を実施
⇒当社業績をふまえながら、最大1億円の寄付を予定



しんぐるまざあず・ふぉーらむ様
寄付の実施

創立60周年記念事業 完了のご報告

東日本大震災で両親を失った子供たちへの支援
(2012年8月8日発表)

- 育英基金を設置し、孤児を支援
- 小学1年生～中学3年生（当時）までの138名
- 総額1億円を拠出



東日本大震災育英基金
卒業イベント

新型コロナウイルス ワクチン職域接種の実施完了

- 対象者 接種を希望するミネベアミツミグループの社員・配偶者などの関係者
- 実施日 2021年6月24日以降
- 実施拠点 東京本部、軽井沢工場、浜松工場、藤沢工場、広島工場、千歳事業所
約1万3千人に概ね実施完了

「第3回ASEAN-OSHNET Award」にて カンボジア日系企業として初めて “Excellence Awards” を受賞

- ASEAN-OSHNET Award : ASEAN各国において
労働安全衛生が優れた企業を選定するもの
- “Excellence Awards” : 各国の中で最も優れた
労働安全衛生管理システムを有する企業1社に贈られる



表彰式（リモート画面より抜粋）の様子

ミネベアミツミ公式ウェブサイト「ESG情報インデックス」を設置

環境・社会・ガバナンス（ESG）への対応、サステナビリティへの取り組みについて
GRIスタンダードに沿って整理し、該当する情報へのリンクをまとめました。

弊社ウェブサイトよりご覧ください → <https://www.minebeamitsumi.com/csr/list/data/>

2017年発表のイメージは 23/3期に実現の可能性が見えてきた！

21/3期3Q
決算説明会資料より
(21/2/5発表)

事業毎の内訳 (23/3期)

●機械加工品	500億円
●電子機器	300億円
●ミツミ事業	300億円
●ユーシン事業	100億円
●調整額等	△200億円

M&Aで上乗せ！

(ご参考) 2017年5月決算説明会
でのイメージ (21/3期)

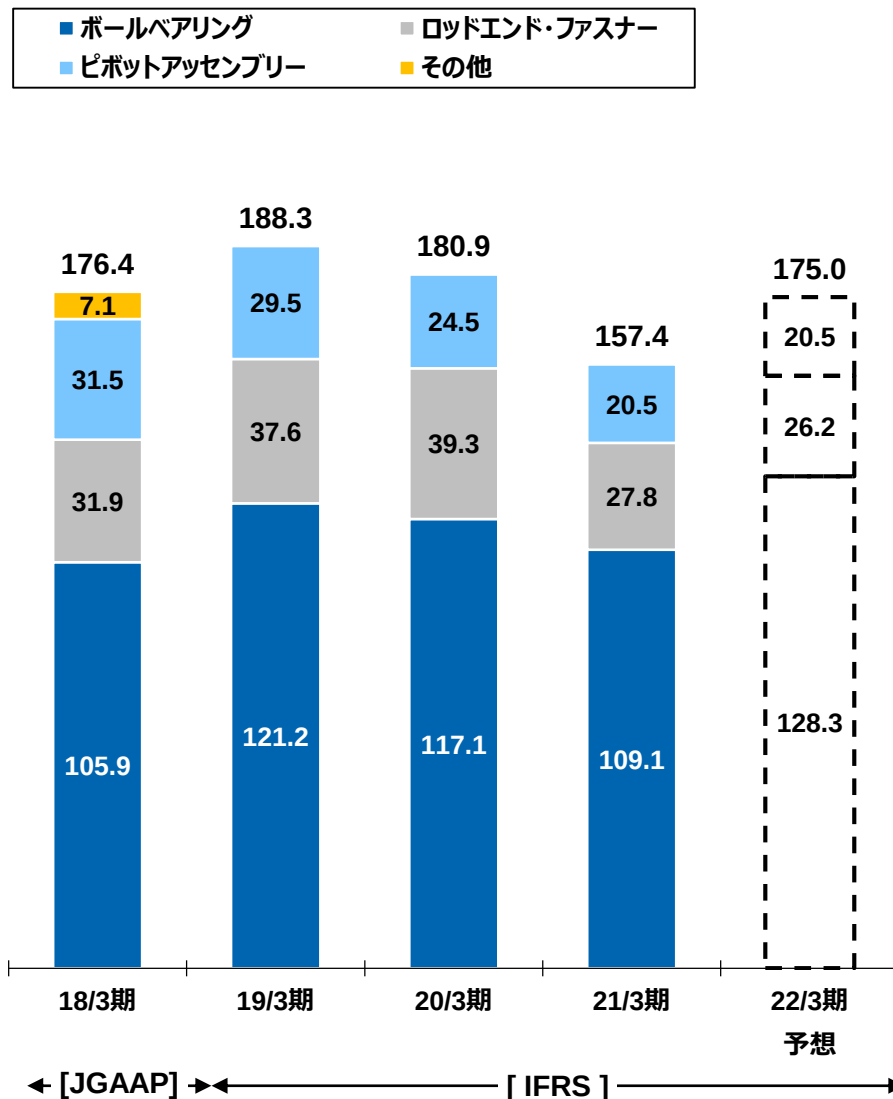
●機械加工品	500億円
●電子機器	300億円
●ミツミ事業	200億円
●M&A	150億円
●調整額等	△150億円



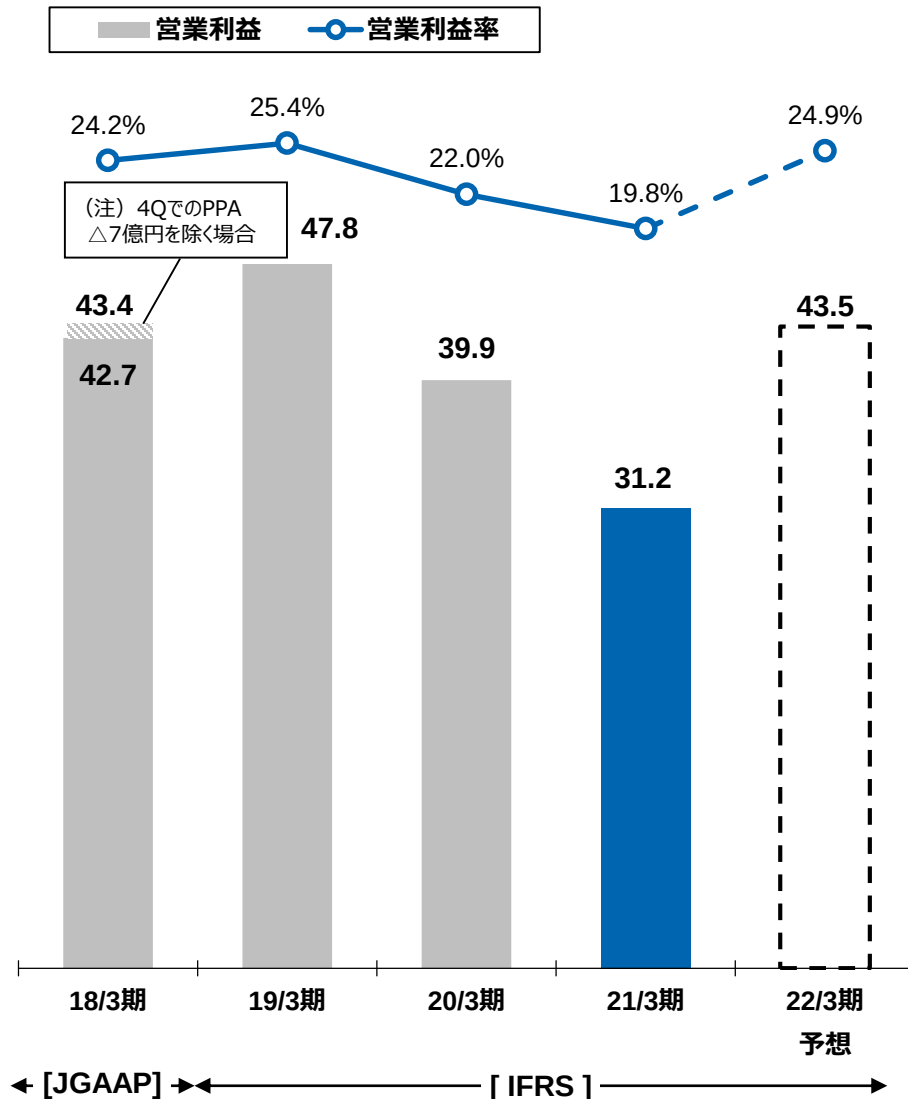
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

參考資料

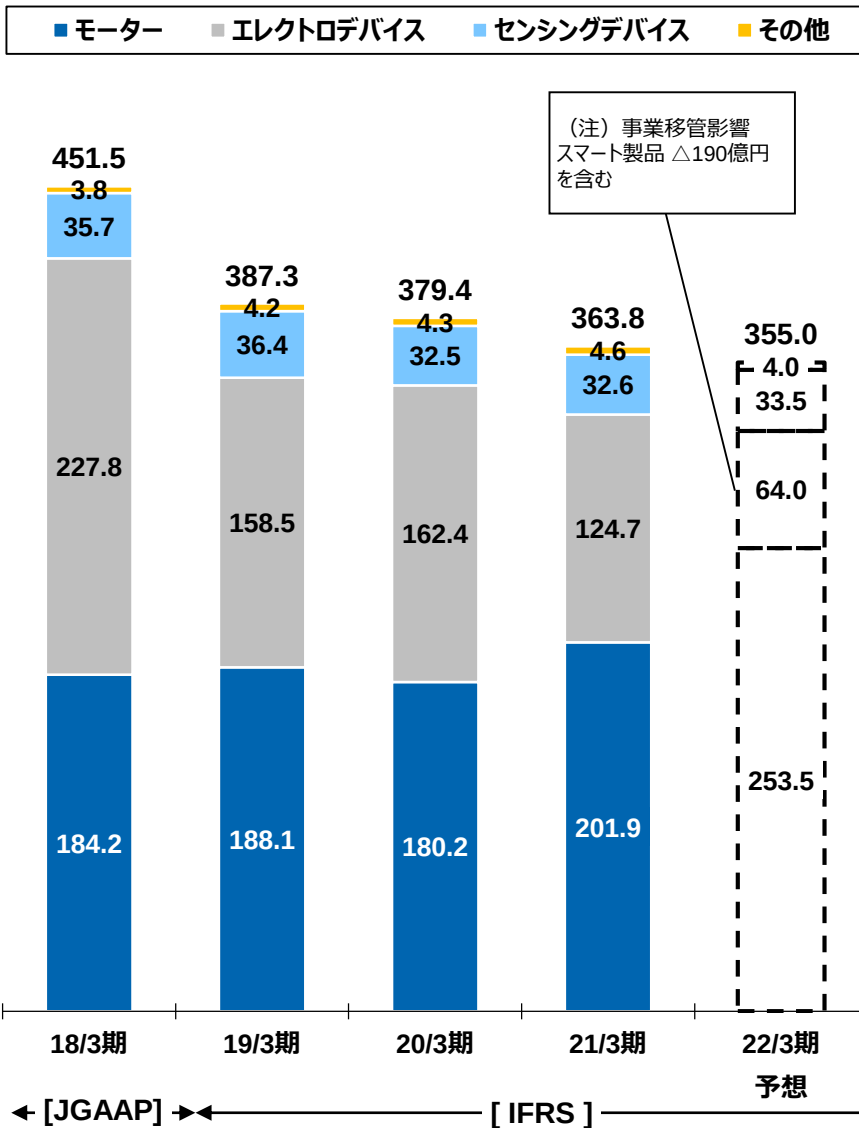
売上高 (10億円)



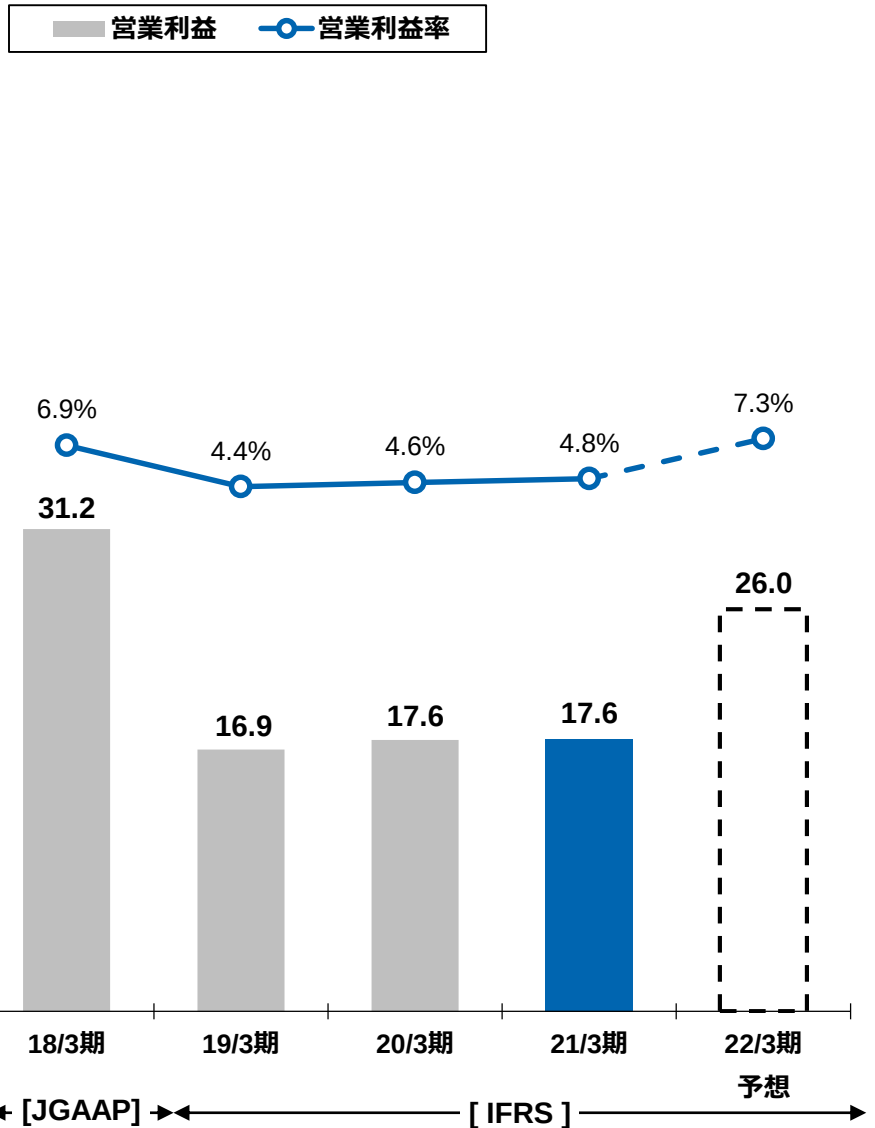
営業利益 (10億円)



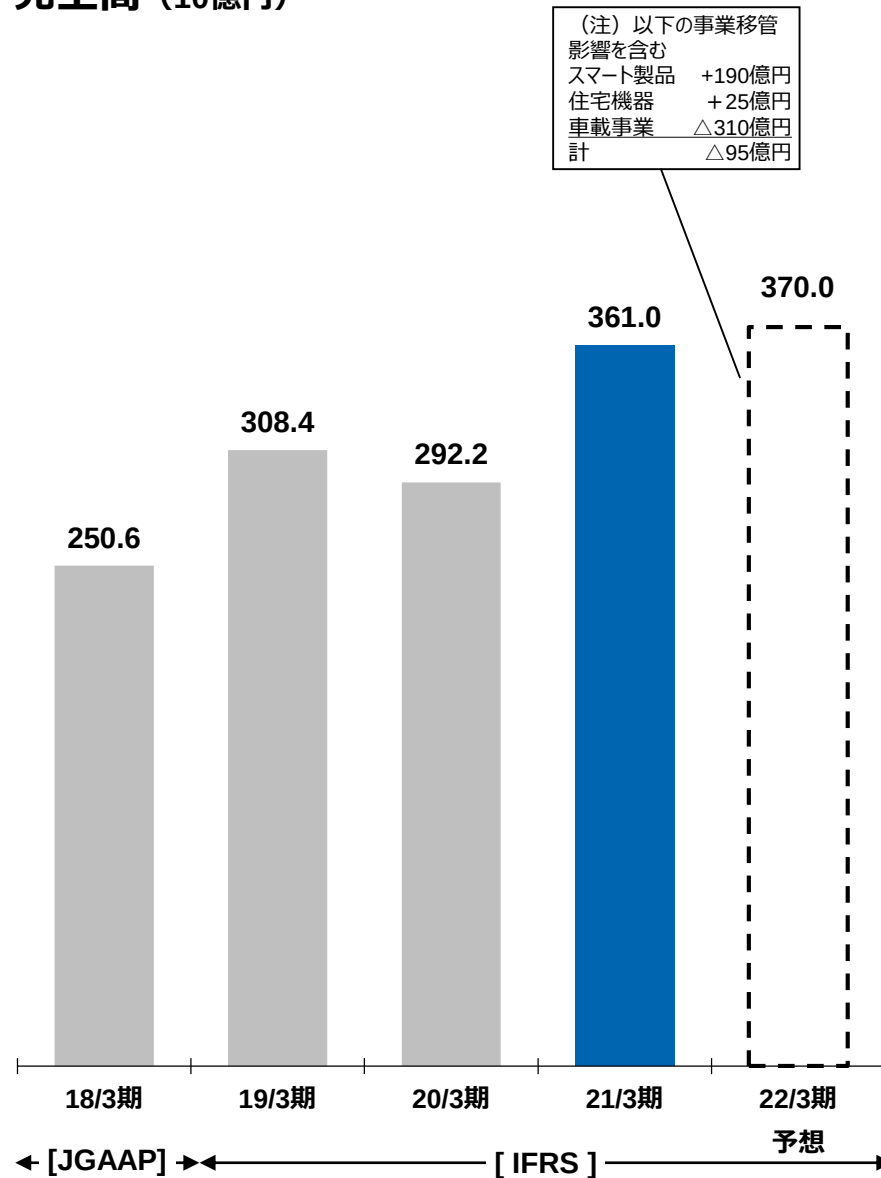
売上高 (10億円)



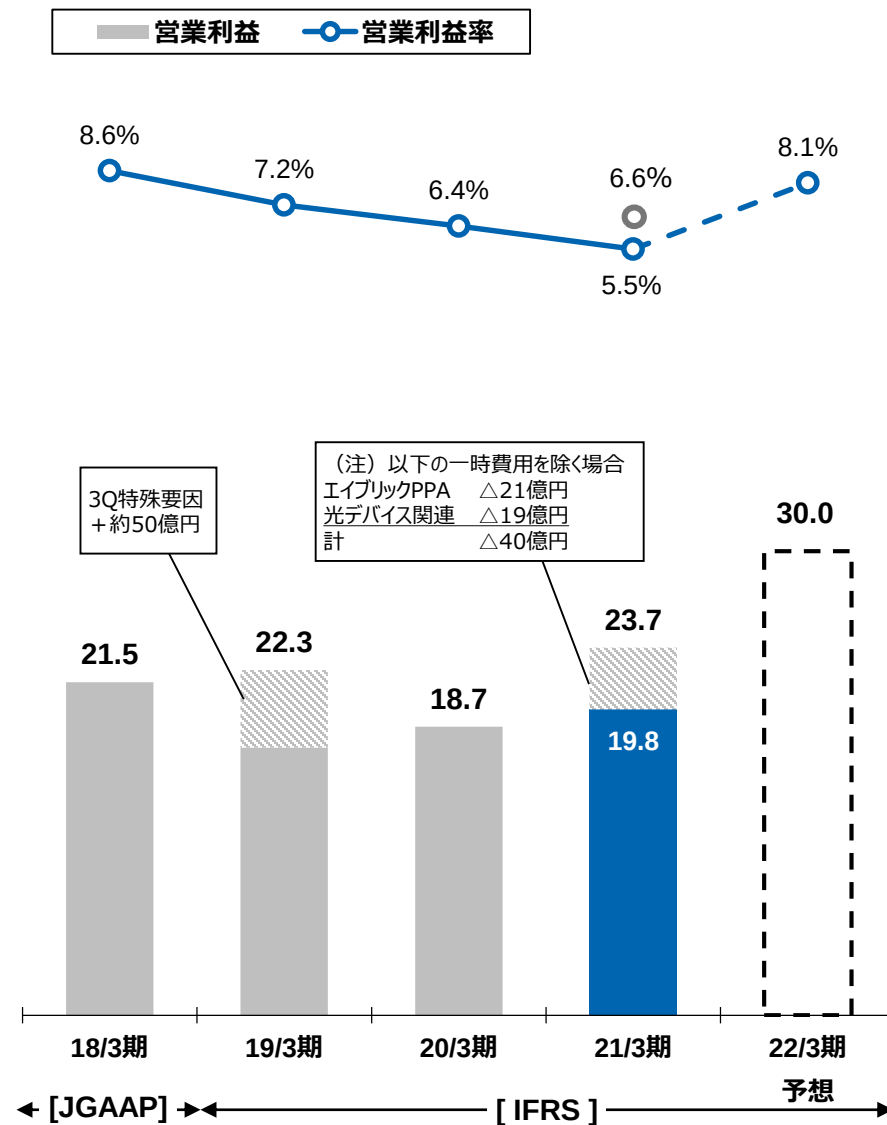
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



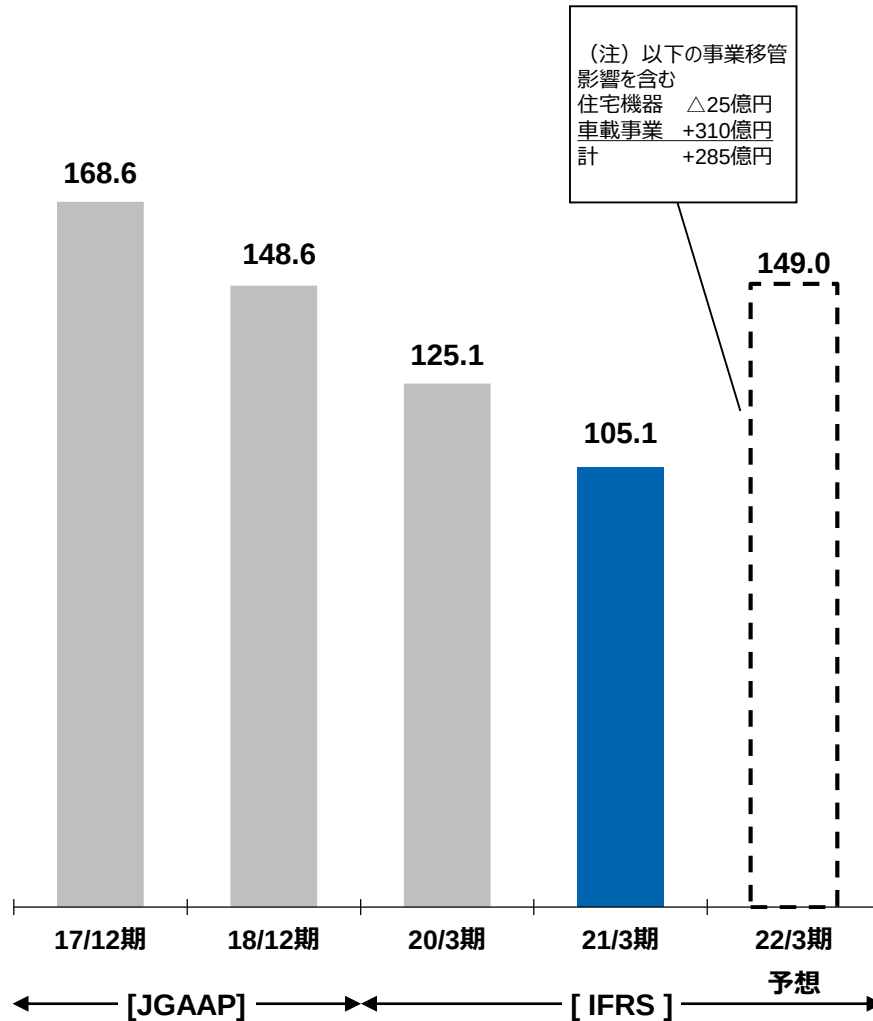
営業利益 (10億円)



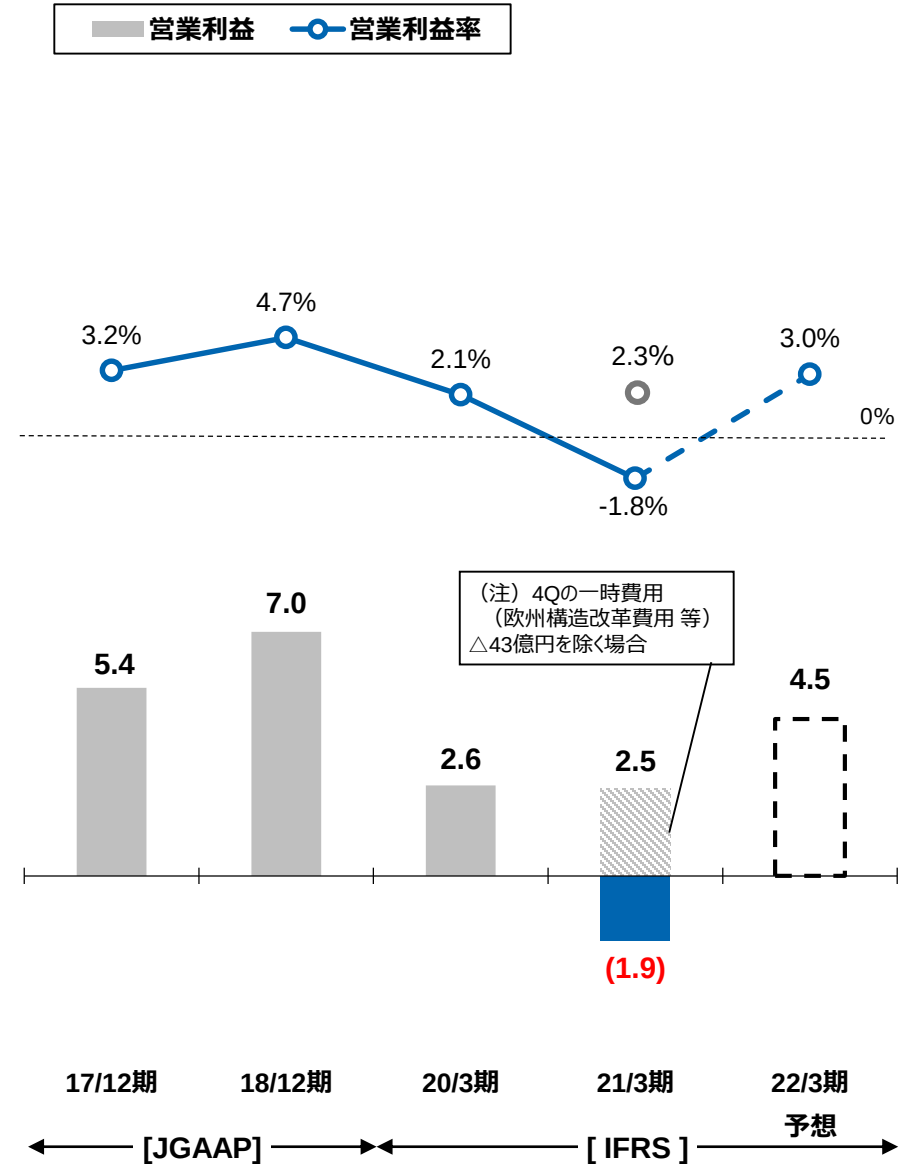
ユーシン事業セグメント

決算期変更に伴い17/12期は13ヶ月決算
18/12期以前は経営統合前の参考値でJGAAP
20/3期は2019年1-3月の数値を含まず

売上高 (10億円)



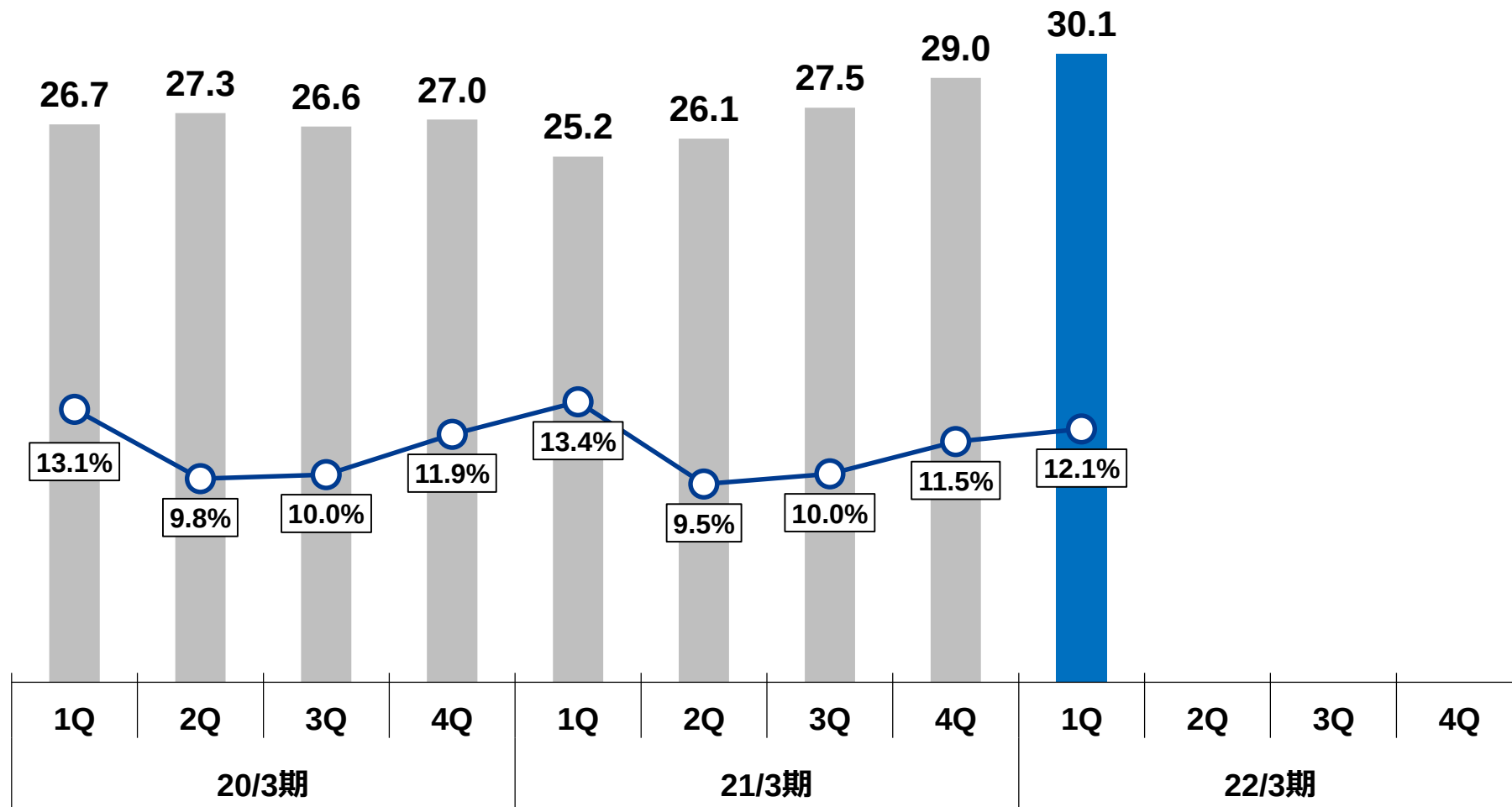
営業利益 (10億円)



販管費

(10億円)

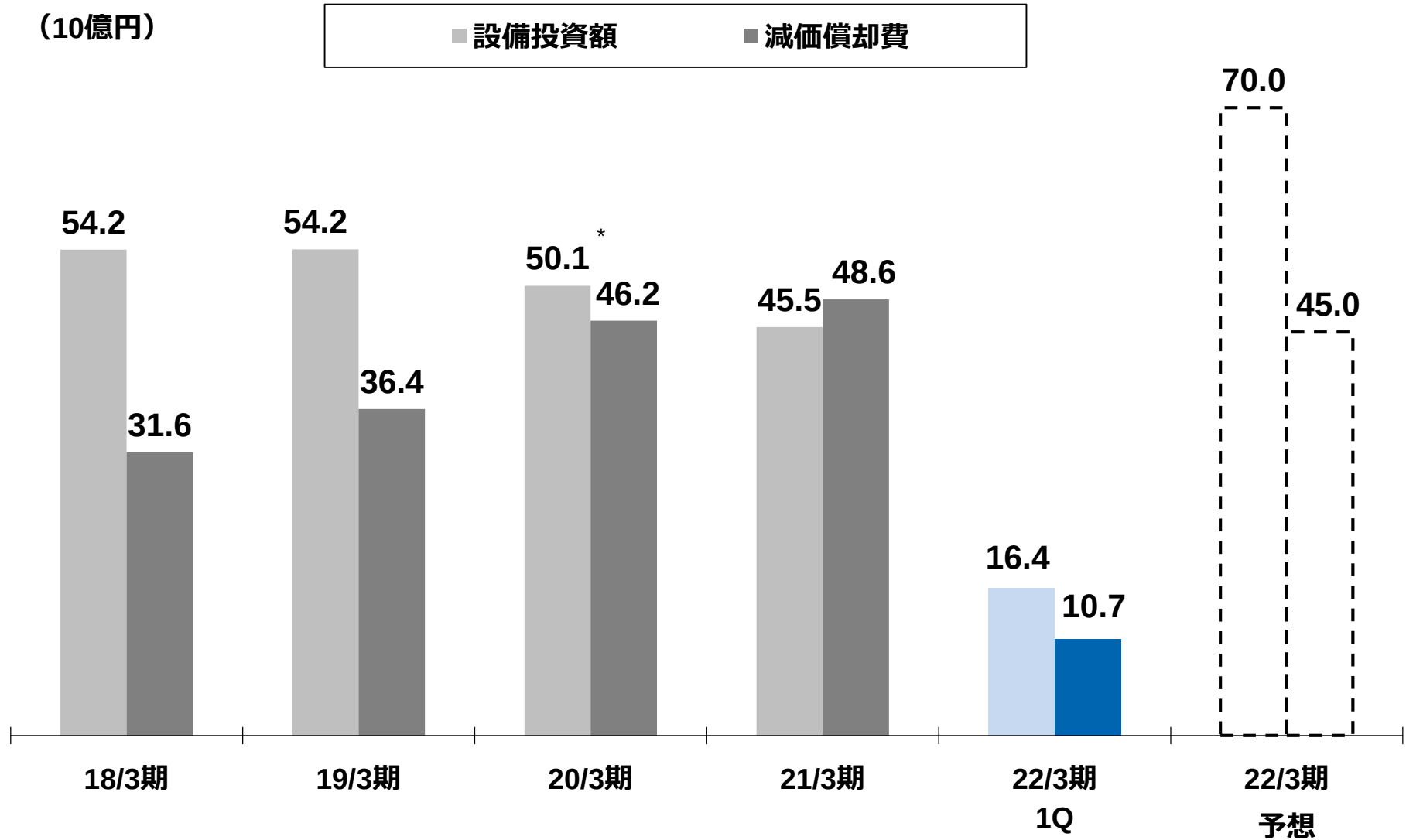
■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費

18/3期はJGAAP

(10億円)



*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれておりません。

← [JGAAP] → → [IFRS] →

ROIC（投下資本利益率）

ユーシン事業は19/3以前は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含まない。その他のセグメントは18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版
ROIC

=

NOPAT
投下資本

（営業利益＋特別損益）×（1－税率）

（受取手形・売掛金＋棚卸資産＋固定資産－支払手形・買掛金）

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

(%)

